

令和8年2月6日
川口市保健所

麻しん（はしか）患者の発生に伴う注意喚起

埼玉県に届出があった麻しん患者について、管轄の保健所が行動調査を実施した結果、以下の施設を利用していることが判明しました。（別添「埼玉県報道発表資料」参照）

感染の可能性がある時間帯に当該施設を利用された方で、麻しんを疑う症状（高熱・発疹・咳・鼻水・目の充血等）が現れた場合は、事前に居住地を所管する保健所に電話連絡の上、指示に従い医療機関を受診してください（特にワクチン未接種の方についてはご注意ください）。

また、受診の際は、感染拡大防止の観点から、公共交通機関の利用は避けてください。

1 麻しん患者が利用した施設

感染の可能性がある時間帯	施設名	所在地
令和8年1月26日（月） 12:00（正午）～17:00	イオンモール川口前川	川口市前川1-1-11

※ 施設への問い合わせは、ご遠慮くださいますようお願いいたします。

※ 麻しんウイルスの空気中での生存期間は2時間以下とされています。現時点において麻しん患者が利用した施設を利用されても心配はありません。

2 麻しんの症状等

- ・ 麻しんの潜伏期間は、通常10～12日間（最短5日間～最大21日間）
- ・ 麻しん患者と接触した場合には、接触後21日間、1月26日（月）の場合は2月16日（月）まで注意が必要です。
- ・ 麻しんに感染すると、約10日後に38°C程度の発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が2～4日続き、その後39°C以上の高熱とともに発疹が出現します。

【注意喚起】

- ・ 現在、麻しんは海外で流行しており、帰国後に麻しんと診断された報告例も増えています。流行地へ渡航を計画している方は、渡航先でどのような感染症が流行しているか確認するとともに、自身のり患歴や予防接種歴を確認し、抗体検査や予防接種を受けることをご検討ください。
- ・ 旅行地域から帰国後、体調不良がある場合には速やかに医療機関を受診し、「いつ、どこへ渡航し、どのような症状が出ているか」を伝え、医師の指示に従ってください。
- ・ 麻しん風しん混合ワクチン（MRワクチン）の定期接種（1歳と小学校入学前）がお済でない方は、接種をご検討ください。

問い合わせ
川口市保健所
疾病対策課 感染症係
(直通電話) 048-423-6726

【参考】

麻しん(はしか)について

1 症状

- ・ 感染すると通常10日から12日後に38°C前後の発熱、咳、鼻汁、くしゃみ、結膜充血など風邪のような症状が約2日から4日間続き、解熱後、再び39°C以上の高熱と発しん（耳の後ろや首あたりから、身体、手足へと広がる）が出現します。
- ・ 肺炎、中耳炎や脳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われており、死亡する割合も、先進国であっても1,000人に1人と言われています。

2 感染経路

- ・ 麻しんは「はしか」とも呼ばれ、麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症（急性熱性発疹性疾患）です。
- ・ 麻しんウイルスの主たる感染経路は空気感染で、その感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症すると言われています。
- ・ 発症した人が周囲に感染させる期間（感染可能期間）は、症状が出現する1日前から解熱後3日間まで（全経過を通じて発熱がみられなかった場合、発しん出現後5日間まで）と言われています。

3 潜伏期間

約10日～12日間（最長21日間程度になる場合もあります。）

4 治療

特異的な根治療法はなく、症状を和らげる治療（対症療法）を行う。

5 予防

- ・ 麻しんは感染力が強く、空気感染もするので、手洗い、マスクのみでは十分に予防できません。
- ・ 麻しんの予防には予防接種が最も有効です。2回の定期接種を必ず受けましょう。
- ・ 麻しんを発症した場合、学校や職場等で感染を拡大させる恐れがあるため、母子手帳などで予防接種歴を確認し、定期予防接種を2回受けていない方や予防接種歴が不明な方は、かかりつけ医などに相談の上、接種を検討しましょう。

6 市内の発生状況(麻しん届出数)

年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
川口市	0	8	0	0	0	0	0	2	0
埼玉県	16	35	0	1	0	0	8	13	0
全国	279	744	10	6	6	28	45	265	9

※ 川口市の2018年は4月1日～12月31日、2026年は1月1日～1月31日の届出数

※ 埼玉県及び全国の2026年は、国の感染症発生動向調査第4週（1月19～1月25日）までの速報値



＜報道発表資料＞

保健医療部 感染症対策課
感染症担当 桑原
直通 048-830-7330 内線 3404
E-mail: a3510-17@pref.saitama.lg.jp

令和8年2月6日

麻しん（はしか）患者の発生について

令和8年2月5日（木）、県内において今年2例目の麻しん患者の発生を確認しました。

本公表は、麻しん患者が周囲に感染させる可能性のある期間内に不特定多数の人と接触した可能性が否定できないため、万全を期す観点から広く情報提供するものです。

利用した施設は下記のとおりです。特にワクチン未接種の人については、下記の利用時間帯から21日以内に、発熱、発疹等、麻しんを疑う症状が現れた場合には、速やかな医療機関の受診をお願いします。

医療機関を受診する際は、医療機関への事前連絡及びマスクの着用を徹底いただくとともに、周囲の方へ感染を拡げないよう、公共交通機関等の利用を避けてください。

麻しんウイルスの空気中での生存期間は2時間以下とされています。現時点において麻しん患者が利用した施設等を利用しても心配はありません。

記

【施設の利用状況】

利用時間帯	利用施設
1月26日（月）12時頃～17時頃	イオンモール川口前川
1月26日（月）18時頃～20時頃	焼肉きんぐ蕨店
1月28日（水）17時頃～19時頃	むさしの森珈琲蕨店
1月29日（木）16時頃～16時半頃	イオンタウン蕨

※1 上記施設への直接のお問い合わせはくれぐれもお控え願います。

※2 公共交通機関の利用はありません。

※3 保健所にて疫学調査を実施し、接触者の健康観察を実施しています。

【患者の概要】

20歳代 男性

発症年月日：令和8年1月27日（火）

主な症状：発熱、咳嗽、鼻汁、発疹

麻しん予防接種歴：あり

【県民のみなさまへ】

- 麻しんは、感染力が極めて強い感染症で、免疫のない人が感染すると、年齢を問わずほとんどが発病します。
- 感染すると10日から12日の潜伏期間（症状のない期間）を経て、38°C程度の発熱、風邪のような症状（咳や鼻水など）が現れ、2～3日間続きます。
その後、39°C以上の高熱となり、体中に赤い発疹が出現します。
- 麻しん患者と接触した場合は、発病までの期間を考慮し、接触後最大21日間の健康観察が必要です。
- 症状や経過から「麻しん」が疑われる場合は、事前に医療機関に「麻しんかもしれない」ことを連絡し、必ずマスクを着用して速やかに受診してください。
- 麻しんは、麻しんウイルスによって引き起こされる病気であり、空気感染、飛沫感染、接触感染でヒトからヒトに感染が伝播するため、換気の徹底が重要です。
- また、有効な予防方法はワクチン接種です。2回接種による免疫獲得率は97～99%以上と報告されており、発症リスクを最小限に抑えることが期待できます。
麻しんの定期予防接種（第1期：1歳児、第2期：小学校就学前の1年間）をまだ受けていない方は、かかりつけ医に相談し、早めに予防接種を受けましょう。
- 心配なこと等がありましたら、最寄りの保健所にご連絡ください。

【報道機関の皆様へ】

- 本情報提供は、感染症の拡大防止のために行うもので、報道機関各位におかれましては、患者等の個人に係る情報について、プライバシー保護等の観点から、提供資料の範囲内での報道に、格段の御配慮をお願いします。

＜参考＞

1 麻しんの発生状況について

（単位：人）

	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
埼玉県	0	1	0	0	8	13	1*
全国	10	6	6	28	45	265	9**

* 感染症発生動向調査による。令和8年の値は5週（1月26日～2月1日）の累積速報値です。

** 感染症発生動向調査による。令和8年の値は4週（1月19日～1月25日）の累積速報値です。

2 その他参考情報

- ・埼玉県ホームページ「麻しん及び風しん流行情報」
<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/masinn.html>
- ・厚生労働省ホームページ「麻しん」

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekakukansenshou/measles/

- ・国立健康危機管理研究機構ホームページ「麻しん」

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ma/measles/index.html>